

緑のセンターだより

NO.128 平成21年11月1日発行

発行元: (財)札幌市公園緑化協会 豊平公園緑のセンター

オオケタデ

Polygonum orientale タデ科 タデ属

オオケタデは夏から秋にかけて 1.5～2.0m に長く伸びた茎が分岐し、その先端に稲穂状で米粒大の濃桃色の小花を多数つけ、花穂を垂れ下がるように咲かせ

る、熱帯アジア(中国南部、東南アジア等)原産の一年生の植物です。葉は緑色で互生し卵形で幅広く、長さは 10～20cm で長い柄があり先端は尖っています。茎や葉には毛が生えていて、名前の由来となったようです。白花や斑入り葉などの変異もあります。同属に分類される植物に、染料として有名なアイ(藍)があります。

観賞用または薬草として作られていたものから種子が落ちて広がり、旺盛な繁殖力により野生化したものが各地に見られます。「北海道ブルーリスト(北海道の外来種リスト)」ではカテゴリーB(道内では影響等は確認されていないが、既に定着している種)に区分されており、道内の一部地域で帰化が確認されています。観賞用として庭に植えられているものも見受けられますが、持ち前の生命力で帰化しないよう取扱には注意が必要です。

英語圏では外見上の特徴から、「プリンセスフェザー(王妃の羽飾り)」や、「kiss me over the garden gate(庭の門を越えて私にキスして)」などと、ロマンティックな呼び名がつけられ、「タデ食う虫も・・・」と表現されるのと大きな差があるのも、東西文化の違いと言えましょうか。



中国にはかなり古い時代に入り、紅草、紅蓼の名で薬草として栽培されていたようで、日本には江戸時代にポルトガル人により「マムシの毒を消す」薬草として中国から伝来したと伝えられています。別名、ハブテコブラとも呼ばれます。

薬草カラー図鑑によれば、江戸時代「名医別録」には種子の効能として「婦人の尿道の病気を治して熱を取り、視力を強めて気分を好転させる」ことや、「首にできたおできに、種子を粉末にして食後に二銭(6g)を一日 3 回酒で服用すると、数日間でその傷口は良くなる」と、また「名医別録」や他の本草書に「おできを葉や種子を煮た汁で洗うと直る」などと伝えられているそうです。

薬効と用法として、化膿性の腫れ物に乾燥した種子を粉末にして一日 6g を水で服用する、また乾燥した葉 1 枚を水 400ml で煮立ててその汁で洗う、毒虫に刺されたとき生の葉を水洗いしてもんで青汁を取り、これを患部にすり込むなどがあります。(S.Y.)

* 北海道ブルーリスト → <http://bluelist.hokkaido-ies.go.jp/>

(地域の生物多様性・生態系に影響を及ぼす、またはその可能性がある生物の基礎情報をまとめたデータベース)

11月の園芸作業

このコーナーの園芸作業は札幌地方での目安です。
ここに掲載した以外の作業もたくさんありますので、
ご不明な点は緑の相談までお気軽にお問い合わせください。

緑の相談受付 10:00～12:00、13:00～16:00
☆豊平公園 811-9370 月曜以外毎日
☆百合が原公園 772-3511 木曜、日曜
☆平岡樹芸センター 883-2891 水曜、土曜

◆芝生の越冬前の管理

道内はまもなく降雪の季節、芝生は積雪下で休眠に入ります。芝生の管理作業はほとんど終わりになりますが、越冬のための病気予防や清掃を怠りなく済ませておきましょう。

百合が原公園の緑の相談窓口は11月19日で、平岡樹芸センターの相談窓口は11月4日で本年の受付を終了いたします。
多くのご利用ありがとうございました。
豊平公園緑のセンターの相談窓口は冬期間も受付を行っております。お気軽にご利用ください。

[芝生の病気]

芝生の越冬時に心配されることは、芝生を枯らす病気の蔓延です。積雪下では数種類の病菌が芝草に感染し、春までに広がり、雪解け期には、茎葉が灰褐色に病変する褐色雪腐病、淡紅色になる紅色雪腐病、枯死した組織に黒い鼠糞状の菌核を発生する大粒菌核病、黒褐色のけし粒状の菌核を生じる小粒菌核病などの病気が発生します。これらを冬損または冬枯れと言い、また雪腐れ病と呼ばれます。雪腐れ病は秋蒔き小麦や芝生の重要な病気の一つで、発生の著しい場合には廃耕となることもあります。

[耕種的予防－清掃]

雑草や落ち葉が溜まったままにしておくと、病虫害の発生原因となり、また、春に芝生の乾きが悪くなり萌芽の妨げになります。根雪前に芝生面を清潔にしておきましょう。

芝が長く伸びている場合は、通常よりは少し高く5～6cmくらいに刈り込んでおきましょう。

土壌改良により排水性や保水性を良くし、有機物を施用したり、生育期間中の肥培管理を十分に行うことも病気予防の第一歩となります。

[化学的予防－薬剤散布]

防除は根雪直前が最適で、11月下旬から12月上旬頃に殺菌剤の散布を行ないます。散布後15日くらい根雪にならない場合は、先の薬剤が無効になりますので、もう一度散布しましょう。

雪腐れ病には異なる菌による4種類の病気があり、有効な薬剤もそれぞれ異なります。

病気の種類と有効薬剤（試案）

薬品名	希釈倍率 (濃度)	散布量(m ² 当たり)		紅色雪 腐れ病	大粒菌 核病	小粒菌 核病	褐色雪 腐れ病
		ジョウロ	噴霧器				
トップジンM水和剤	800～1000 倍	1 <small>リットル</small>	80～130ml	○	○	△	
グランサ水和剤	500～1000 倍				△	○	
有機銅水和剤	500～1000 倍				△	△	△
グラステン粒剤	—	40～60g		○	△	○	
病気の重要度				◎	△	○	△

液剤は展着剤を加え芝生が十分濡れるように散布しましょう。

粒剤は芝生面がわずかに白くなる程度が目安です。

◆堆肥・厩肥の使い方

良い土づくりは、堆肥・厩肥を毎年施用するのが一番の方法ですが、使用には幾分の注意が必要です。堆肥・厩肥の特性を理解して適切に使い、作物を健康に育てましょう。

堆肥・厩肥は、①土を柔らかくする、②各種養分・微量要素などを補給する、③有用な微生物を繁殖させる、④特定の病害繁殖の抑制など、色々な効果をもたらします。

しかし、未熟堆肥・厩肥の施用や、不適切な堆肥・厩肥の種類・使い方は、作物の生育に害を及ぼすこともあります。堆肥を使用する時には、①未熟の物を使用しない(土壤病害の原因になる)、②過剰に施用しない(やりすぎは作物の生育にマイナスに作用する事もある)、③堆肥施用からは種・植え付けまで間隔を置いて土になじませる事などに注意して下さい。

主な堆肥の特徴		
堆肥の種類	特 徴	使 用 量
自家製堆肥	肥料成分は各家庭の使用材料(生ゴミ・ワラ・落ち葉など)で異なる(堆肥を堆積中にかき混ぜを2回必ず行い、完熟堆肥にする)は種・植え付けの1ヵ月前に施用(使用材料により畑に施用する時期は異なる)	2000～3000g／㎡
牛糞・馬糞 厩肥	肥料成分は少ない 秋に施用し畑起こしをしておくのが良い	2000～3000g／㎡
発酵鶏糞	肥料分が多い ワラ・木の皮などは無いので、土を柔らかくする効果は少ない は種・植え付けの2週間くらい前に施用	500g／㎡
乾燥鶏糞	肥料分が多い 施用量が多すぎたり、は種の直前施用は肥料ヤケ、発酵ガスで発芽に影響する事もある ワラ・木の皮などは無いので、土を柔らかくする効果は少ない は種の1ヶ月前に施用	200～300g／㎡
豚糞厩肥	肥料分は牛糞給費と鶏糞の中間くらい は種の2週間くらい前に施用	300～500g／㎡
家畜糞入り バーク・ おが屑堆肥	肥料分は少ない 発酵に2～5年の時間がかかり、未熟で出回っている物があるので注意 秋に施用し畑起こしをしておくのが良い	2000～3000g／㎡

※堆肥:ワラ・枯れ草などを主体に発酵させたもの ※厩肥(きゅうひ):家畜糞を主体にワラなどとともに発酵させたもの

病害虫を知ろう! Part8 もち病の巻

《 症状と診断 》

ツバキ類とツツジ類だけに発生する病気です。春と秋、特に春に多く発生し、新葉やその葉柄、新芽、蕾、まれに花などが病気になるります。

病気が進むと、その部分が、ツバキでは本来の何倍もの厚さや大きさに肥大し、ツツジ類では焼いたもちのような異常な形にふくらみ、とても目立つようになります。どちらもその表面はつやのある淡い緑色や黄緑色になり、日が当たるとわずかに赤みを帯びます。病気がさらに進むと、発病した部分は表面に白い粉を生じます。発病部分は最後には干からびてしぼみ、黒褐色に枯れてミイラ化したり、腐ったりします。多発すると株全体の生育が悪くなり、翌年の花つきも悪くなります。

《 発生の環境 》

糸状菌(カビの仲間)の感染により起こる病気で、発病部分の白い粉はカビの胞子などです。胞子は飛散して病気を広げたり、新芽などの若い組織に感染したりします。

新芽などに進入した菌はそこで冬を越し、翌春、新芽の展開とともに活動を始め、病気を発生させます。春や秋に雨が続き、日照が少ない天候、日当たりが悪く多湿になりやすい場所で発生しやすくなります。

《 防除法 》

●表面に白い粉が生じる前に発病部分を切り取り、地中に埋めるか、ゴミとして廃棄処分します。これを徹底すれば、1～2年でほぼ発生をなくすことができます。

●薬剤で防除する場合

春、萌芽前 (石灰硫黄合剤 50～60 倍液の散布)

新芽の展開する時期 (オーソサイド水和剤 800 倍液 サンボルドー 300～600 倍液 ダコニール 1000 1000 倍液

ビスダイセン水和剤 600～800 倍液 トリフミン水和剤 1000～1500 倍液)

11月～12月上旬の催しのお知らせ

豊平公園緑のセンター 豊平区豊平5条13丁目 TEL 011-811-6568

内容	日	時間	申込受付開始日	費用・備考
園芸教室				
シクラメン他冬の鉢花の室内管理	11月7日（土）	13:30	10月11日～	無料
家庭でカンタン堆肥作り	11月8日（日）	〃	〃	無料
各種洋ランの冬の管理	11月22日（日）	〃	11月11日～	無料
正月用ミニ盆栽を作ろう	12月12日（土）	〃	〃	材料費 3,000 円
展示会				
洋ラン展	11/17（火）～23（月）		北海道蘭友会	入場 無料
クリスマス展	12/1（火）～25（金）		豊平公園花とハーブの会	
クラフト講習会				
押し花で年賀状	11月20日（金）	10:00	11月11日～	1,500 円
あけび工房 あけびで作るお正月飾り	11月28日（土）	10:00	〃	2,500 円
自然素材でリースを作ろう	12月6日（日）	10:00	〃	1,500 円
コチョウラン植え替えサービス day	11月20日（金）	お客様の家庭のコチョウランを、緑の相談員が植え替え実演しながら、解説いたします。 11月11日から電話でご予約を承ります。 (参加費：材料費実費のみ)		

百合が原緑のセンター 北区百合が原公園210 TEL 011-772-3511 <http://www.sapporo-park.or.jp/yuri/>

展示会	日	料金
クリスマスディスプレイ	11/24(火)～12/13(日)	入館料 130 円

平岡樹芸センター 清田区平岡4条3丁目 TEL 011-883-2891

クラフト講習会				
クリスマスから お正月まで楽しめるアレンジ	11月5日(木)	10:00	10月11日～	2,500 円

平岡樹芸センターは、11月5日をもって本年の営業を終了いたします。本年も沢山のご来園ありがとうございました。
 閉園後は冬囲いなどの作業・手入れを行い来年に備えます。来年は4月下旬からオープン予定となっております。

豊平公園 緑のセンター 公式ウェブサイト <http://www.sapporo-park.or.jp/toyohira/>

※「緑のセンターだより」バックナンバー公開中 ※